

## 第7回国土交通省成長戦略会議

平成22年2月2日

【中原政策官】 ただいまより、第7回国土交通省成長戦略会議を開催させていただきたいと思っております。皆様方、大変お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ふだんですと、前原大臣から冒頭のあいさつをさせていただいておりますけれども、今、記者会見中ですので、終わり次第参りますので、冒頭のあいさつは省いて、すぐ、実質審議に入っていただきたいと大臣も申しておりましたので、よろしく願いいたします。

それでは、長谷川座長、よろしく願いいたします。

【長谷川座長】 ただいま、中原政策官からお話のあったとおりでございますので、早速、始めさせていただきたいと思っております。政務三役は辻元副大臣に代表していただくということで、よろしく願いいたします。

【辻元副大臣】 どうも申しわけございません。今、高速道路の無料化の区域を発表しておりますので、ちょっと長引くかもしれません。すみません。

【長谷川座長】 それでは、本日は前回に引き続きまして、各分野の論点整理を行いたいと存じます。

本日は、まず、住宅・都市分野の論点整理につきまして20分程度の発表をいただきました後、それに対する質疑を30分か35分ぐらい行いたいと思っております。その後、国際展開分野の論点についても同じような時間割で行いたいと思っております。

なお、前回も申し上げましたが、各分野の論点整理の資料はこの会議限り、非公表とし、その概要及び主なご意見について、私、座長から会合の記者の方にブリーフをすることによって、説明をさせていただくということで取り計らいたいと思っております。

それでは、まず、住宅・都市分野の論点整理につきまして、安委員から、ご説明をお願いいたします。

～ 以下、住宅都市分野の中間論点整理 概要 ～

### 【安委員からの発表】

- ポテンシャルの高い都市の国際競争力強化の取組を成長のエンジンとする。
- さらに、住宅・都市が直面する課題、例えば、財政制約、ストックの老朽化、高齢化、環境問題などについて、複合的に解決策を講じることにより、内需主導の持続的な経済成長を実現する。
- その際、官民連携の枠組みでモデルプロジェクトを実施し、モデルケースとして見せていく、という姿勢で臨むこととする。
- このような基本的考え方のもと、住宅・都市分野では以下を中間的な論点として整理。

#### ・ ポテンシャルの高い都市の国際競争力の強化と地域の強みを活かした戦略的な都市開発

- もともと競争力の高い大都市について、都市整備の体制や規制緩和、民間資金の誘導手法、シティセールスの展開手法などを検討。
- 地域の強みや個性を活かした戦略の喚起と地域戦略の実現手法について検討。

#### ・ まちなか居住・コンパクトシティ

- 財政（予算、行政サービス）制約、人口減少・高齢化、環境問題に対応するサステナブルなまちの運営を実現するための方策の検討。

#### ・ 良質なストック形成に寄与する住宅・建築投資の促進

- 良質な住宅・建築ストックに置き換えていくため、建替えやリフォーム促進策を検討。その際、関連制度の見直しや規制緩和、支援策などを検討。

#### ・ 官民連携による都市・まち整備の枠組み、体制の構築

- プロジェクトを実施するワンストップ型の官民連携体制の構築を検討。

### 【発表に対する委員からの主なコメント】

- ポテンシャルのある都市に集中投資するのは仕方ないが、一方で地方に対しては規制緩和して自由にやれるようにすべき。大都市の規制は地方には合わない。
- 賃貸住宅や公営住宅を医療や子育てとリンクさせて活性化を図っていくことにより社会の底抜けを防ぐことが競争力の強化につながるのではないか。
- CO<sub>2</sub>の削減を図る上で都市・住宅分野の対策は非常に重要。新技術の開発も必要。
- 我が国を元気にしていくためには、政府のお金はかけない中で、大きな目玉プロジェ

クトを作り上げていくことが大切。

～ 以 上 ～

【長谷川座長】 では、まだまだこの分科会の論点整理、論議は尽きないと思いますけれども、予定の時間がまいりましたので、国際・官民連携分科会の論点整理に移りたいと思います。まず、座長の大江さんから、20分から25分ぐらいでご説明をお願いいたします。

～ 以下、国際・官民連携分野の中間論点整理 概要 ～

【大江委員からの発表】

- 国内市場の大きな発展が困難となる一方で、アジアを中心とした海外市場は大きな成長（10年間で8兆ドルのインフラ整備ニーズ）が見込まれており、我が国の優れた建設・運輸産業、インフラ関連産業の国際展開を促進する。また、公共事業費の削減が不可避となる中、維持管理を含め、真に必要なインフラ整備を戦略的かつ重点的に進めるため、官民連携（PPP/PFI）の推進を通じた民間資金・ノウハウの活用に努める。
- なお、国内におけるPPP/PFIの活用は、海外で拡大するPPP/PFI市場での日本企業、投資家の競争力にも大きな影響を与えることから、国際展開の促進にも資する形で、国内の制度整備を進めることが必要。
- このような観点から、具体的には以下の取組が必要。

・ 海外へ進出する日本企業への支援ツールと政府サイドの支援体制整備

- 組織・体制の強化、リーダーシップ
  - 国交省内の体制強化、省庁横断的な体制整備、様々なリソースをパッケージ化して事業として展開していく主体の創設・育成の検討、既存の支援機能の強化
  - 政治のリーダーシップによる官民一体となったトップセールスの展開
- スタンドアードの整備
  - 日本の規格を国際統一規格とするための取組
- 金融メカニズムの整備

—海外投資機能の効果を通じた政府によるインフラ開発、リスクマネーの供給体制、日本の機関投資家や年金基金、及びこれらの資金で運用されるインフラファンドによるアジア向け投資の支援や信用補完策などの検討

<留意点> 地方中小企業が国際展開のノウハウを獲得する仕組み作り

・ インフラ整備や維持管理への民間資金・ノウハウの活用（PPP/PFIなど）

➤ これまでのような公共建築だけでなく、空港、港湾、有料道路、地下鉄、新交通システム、下水道、観光施設、都市開発等をターゲット領域として広げ、会計法、地方財政法等の関連法を整備

<留意点> 官民の役割・リスク分担、適度な競争的環境整備、高い透明性の確保、個人金融資産や公的・企業年金資産等の膨大な資金の運用者がPPP/PFIを通じてインフラ投資のノウハウを身につけ、資金の担い手となる仕組みづくり、モデルケースの造成

【発表に対する委員からの主なコメント】

- 海外進出の際には、国が企業や資金をとりまとめ、政治のリーダーシップをもって戦略的に行うべき。また、対象国の発展段階に着目して、戦略的にターゲットを絞るべき。
- ソフト面も含めて、規格の国際標準を取得することは非常に重要であり、世界のインフラ投資の主導権を取ることに繋がる。
- 海外プロジェクト情報をどこが責任を持って収集するか、また、どこが受け皿となってコンソーシアムを形成し推進するかという議論を進め、実行のスピードを確保することが必要。
- 海外展開には、国家安全保障の観点も必要。
- PPPは、民間資金を使うことで効率的なノウハウがもたらされるかどうか重要。
- 資金調達と同時に、完成後の運営ノウハウも非常に重要であり、運営メンテナンスが最も安定的にキャッシュフローを得られる。
- 厳しい財政状況の中で成長戦略を描くには、規制を排除すべき。

～ 以 上 ～

【長谷川座長】 ほかにご意見がまだあるかもしれませんが、予定の時間がまいりましたので、本日の成長戦略会議はこれで終了とさせていただきますと思います。

それでは最後に、前原大臣より一言。冒頭のあいさつも含めて、おまとめをお願いいたします。

【前原大臣】 委員の皆さん方、お忙しい中、わざわざお越しをいただき、また熱心なご議論をいただきましてまことにありがとうございます。

非常に濃密ないい議論で、あっという間でもございましたし、また、このバックには分科会で相当時間をかけて練り込んでいただいているんだろうと。そのご労苦をほんとうにありがたく思っております。ボランティアでやっていただいて、ほんとうに申しわけない気持ちでございますが、今年の私のテーマは有言実行ですので、必ずこれを実行していくということで、皆さん方のご労苦におこたえをしたいと思います。

一つだけ、鳩山さんが、この間、参議院選挙の後に——大負けしてぐちゃぐちゃになったらわかりませんが——省庁再編を含めた取り組みをやっていくということをおっしゃっておりました。まさに縦割り行政で、機能していない仕組み、あるいは既得権益によって、本来なら一緒にやれるものができていない——よく例に挙がるのは幼保一元化。何で幼稚園と保育園を分けるんだと。幼稚園が文部科学省で保育園が厚生労働省、分けておく必要はないじゃないか。そのとおりなんですよね。

この成長戦略会議を通じて、私は、ひょっとしたら国土交通省の中の部局の見直しまでやる必要があるかもしれないと、むしろそう思っているんです。また、それをしないと、分権が進んでいく中で、国土交通省が要らない役所だと言われる可能性があると思うんです。つまりは、どんどん地方分権が進んでいくようになってくると、金も権限も地方に渡していくことになったら、国土交通省の仕事って一体何なんですかと。もちろん残るものはありますけれども、そういうことが問われかねないことになってくると思うんです。

しかし、国家戦略を進めていくにおいては、やはり、こういった国として、国家意思を持って、国家戦略を進めていく役所、経済官庁は絶対必要ですし、そういう意味では私は、後ろにおられる方々、我々政務三役も含めて、成長戦略会議は国土交通省の生き残りの成長戦略でもあるし、そういう観点で物事に取り組みなければいけないのかなという思いをいたしておりますので、どんどん皆さん方には戦線拡大でいろいろとご迷惑をおかけするかもしれませんが、とにかく……。

【辻元副大臣】 毎日拡大する。

【前原大臣】 毎日拡大……。とにかく一つ一つちゃんとやっていく。それが日本の成長につながり、皆さん方の恩返しへもつながると思っておりますので、どうかあきれずに、これからも引き続きご尽力を賜りますようによろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

【辻元副大臣】 よろしく申し上げます。

【長谷川座長】 どうもありがとうございました。

責められているのは委員だけではなくて、政務三役の方もどうも同じようなお立場というところで、同病相哀れみながら頑張りたいと思います。

なお、これで終わりたいと思いますが、次回の会議につきましてはまた改めて今週金曜日ということで、非常に短い期間ではありますが、18時より本日と同じくこの会議室で開催をする予定でございますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これで本日の会議を終了いたしたいと思っております。どうもありがとうございました。

— 了 —